東北方言における格助詞「サ」について

鎌　田　良　二

〔1〕

「京へ筑紫に坂東さ」という諺の通り，東国方言として知られている方向を表わす格助詞「サ」は，今日では主として東北地方において用いられている。

この「サ」は，東北地方以外では，「に」及び「へ」となるものであるが，この「サ」の用法と，「に」及び「へ」の用法との比較。「サ」の地理的分布。などを通して「サ」の性格について考察してみたい。

東北方言全般について記したもので，最も新しいものは「方言学講座　第二巻」である。この書に，現在の「サ」の用法について次のように記してある。

青森――「へ」に相当する助詞サがあるが，「へ」よりも用法が広く，センセサキク（先生に聞く）アダコサニワハカセル（女中に庭を掃かせ）のように「に」に当る用法も行われている。――P．146.

秋田――方向格サであらわす。方言の正しい用法は，サは方向格で，その下に来る助詞は進行性の意味を持つ動詞である。山サノボル，棚サオグ（〝置く〟まで動作の進行がある）とはいえるが，棚サアルとはいえない。老人の用法は，こうであるが，現在はタナサアルのような言い方もむしろ普通になっている。――P．167.

岩手――場所・帰着点・目的・結果・方向・相手などを意味する「に・へ」に当るものに「サ」がある。「学校サ行ぐ，空サ上る，ここサおぐ」但し，旧南部の「机の上サある」の言い方は旧伊達では用いない。また，「甲は乙サ（に）同じだ」と言う比較にも用いない。――P．201.

宮城・山形――場所・方向を示す共通語のに・へに対応するものはサ（場合によってチャとも）である。（山形サ行く，左サ曲る，オレチャケロー俺にくれ…）が，

山形県置賜や，宮城県では目的を示すのにサを用いることがある。（映画サ行く，何れサ来た，お目にかけサ来た）——P．230.

以上のように，サの用法は各県ごとにかなりの出入があるようだが，これは，各県の執筆者がそれぞれ違うので，県下のサの用法のすべてをあげたものか，或いは，その代表的な用法をあげたものか，また，特に東北地方全般からみてその県の特色をあげたものか。などについては判別し難い。

そこで，ここに，東北地方各県の各市，各郡におけるサの用法はどのようなものであるか，その実態を調べ，その上でサの性格を考察してみたい。

サは方向格をあらわすのに用いられるということだから，「へ」に相当するものであるが，現代語では方向格には「へ」と同時に「に」も殆ど同じように用いられている。そこで，サは「へ」と全く同じ働きをするものか，「に」の働きをもするのか。ということを調べることによって，「へ」と「に」との相違をもあわせ考察することになる。

ところで，サは方向格を表わすものであって，「へ」と同様に使われても，もちろん「へ」の音韻変化などではないことは明らかである。サがもともとどのような語からきたものであるかについて，東北大学の佐藤喜代治教授は，「東ざま」「西ざま」のように方角を示す「さま」に由来するものだろうと言われるから，「へ」とは全く別の語ということになる。[1)]

〔2〕

今回の，調査方法の概略を記す。

まず，調査にあたってサの上接語と同時に，下に続く語にも注意した。用例の語として選んだ理由のいちいちについては〔4〕の結果の考察の項であわせ記す。

調査の用例は次の通りである。

①東京サ行く	③（友人が私の家）サ来る
②東京サ着く	④此処サ置く

1）「東北方言における格助詞『サ』の用法」（国語学研究 1 東北大学文学部）

⑤湯が水サなる	⑩山サ登る
⑥先生サ聞く	⑪棚サ在る
⑦映画（を）見サ行く	⑫何（を）しサ来た
⑧子供サ庭　掃かせる	⑬仕事サ行く
⑨ウサギサ追いかける	⑭甲は乙サ（に）同じだ

調査方法はすべて通信によった。昭和40年6月から10月までの間に往復ハガキによって調査した。（昭和39年8月26日から9月5日まで山形県各地の方言語法を臨地調査した際にも上記用例とほぼ同様のものを用いたが，その結果はここでは参考にとどめておく）

北関東，東北，北海道海岸地帯の各市，各郡の中学校・高等学校国語科主任に調査を依頼した。中学校を主として，高等学校はそれを補う程度にした。中学校を主としたのは校区があまり広域にわたらず，こちらで希望する地点には必ず学校があるので好都合であったからである。国語主任に依頼したのは，校区内の実態をよく把握しているだろうということと，特に，文法調査であるから調査目的にはずれないよう，適確な答を期待したからである。臨地調査の際，地元の古老にたずねても，助詞の調査ではまとはずれの答が多くて困ることがある。

一般に語法の調査は，自然会話の中から抽出すべきもので，一例をあげて示しても，はっきり使わないとも言い切れず，また，その土地の言葉としての正確な用法かどうかを即座に答えることは難しいものである。

そこで，現在の方言の姿を見るためには，数多くの人について調べ，その百分率を出すことがよいと思う。

百分率で出すというのは，「方言」とは現在における当該地域社会の成員が使用している言語全体をさすのであるから，或る一古老が使っても他の多くの人が使わなければ，それは現在のその土地の方言とは言い難いからである。

ところが，一地点についてそのような多人数の調査ができないときには，地元の語法についてその大勢を知っている中学校の国語主任に依頼すること

も一方法であると思う。

調査は東北五県及び茨城・栃木両県の全市・全郡と，北海道の海岸地域・群馬・新潟の一部について行なった。

群馬・新潟の一部を入れたのは，サ使用の境界線を知るためである。

北海道については，「方言学講座　第二巻」に次のようにある。

「学校サ行く」などがある。……「サ」は札幌はもちろん，札幌式諸方言全体のなかでも頻度が低く，むしろ〝浜ことば〟の特徴にかぞえてよいほどである。（芳賀氏）——P．123.

「映画さいぐべ」は海岸，「映画ィいくべ」は内陸一般である。「さ」の「京へ筑紫に坂東さ」と坂東言葉としての認識も，北海道では浜言葉となっている。（五十嵐氏）——P．445.

この説に従って，海岸地帯のみを調査した。

調査にあたって調査の往復ハガキを600枚準備した。約3分の1の回収を期待したからである。

地点の選定は，北関東の二県と，東北地方五県の全市，全郡について，それぞれの市，郡の中心部と思われる地点を2乃至3地点えらんで発送した。

一郡内の3地点とも回答がない場合は，さらに別の地点をえらんで第二回目の調査を発送した。そうして，郡内の中心地と考えた地点からの回答がない場合もかなりあったので結局，ここにあげた地点が，郡の北端になったり，または南端にかたよったりすることともなった。これとは反対に郡内の三地点とも回答があった場合は，隣接の郡の調査地点となるべく離れた方を採った。

387地点から回答があったが，市，郡の一地点のみをここにあげることにしたので（表2）のように202地点になった。

〔3〕

（表1）は各県別の調査結果である。各県内の点線の上段は市部，下段は郡部である。

調査地点の記し方は，市と町，郡と町(村)とを記した。例えば，青森県の

①青森・横山は，青森市横山町。⑨東津軽・今別は，東津軽郡今別町の意である。町名は，調査の対象となった中学校，高等学校の所在地である。地点番号に○印のあるものは高等学校，ないものは中学校である。高等学校の方はここに記した町よりも校区がさらに広がるものと思ったから中学校と区別したのである。

用法①～⑭は，本稿〔2〕の項のはじめにあげた14の用例である。

この14の用法としてサを使うかどうかについての調査の結果，○印はサを使う。×印は使わない。◦印は「使用者は少ない」と答えたものである。•印は校区の中の「一部の地域では使う」，△印は老年層のみ，▽印は青年層のみが使う。△▽は老年層と幼年・子供（青年層ではなく）とが使う。▵印は一部の老人，農業をしている老人，漁業をしている老人などに限って使う場合，▿印は一部の青年のみが使うという場合である。

この調査では，サを使うか，使わないか，だけに関するもので，サを使わずに，エを使うとか，ニを使うなどということはここでは扱わない。

また，「使う」と答えた中でも，かならずしも全員が使うとは限らない。

これは，さきに百分率に関した述べた場合にも記したように，その地域社会の成員が現在，使わない者が多ければ，過去においていくら使っていたとしても，現在の方言としては「使わない」とするのである。

例えば，岩手県岩手郡岩手町の第一中学校では82名に調査した結果は次の通りである。

用　法	使　う（人数）	使わない（人数）	用　法	使　う（人数）	使わない（人数）
①	78	4	⑧	73	9
②	64	18	⑨	0	82
③	65	18	⑩	81	1
④	80	2	⑪	78	4
⑤	0	82	⑫	72	10
⑥	31	51	⑬	75	7
⑦	70	12	⑭	3	79

この中，⑥の場合など多少問題があろう。

次に，東北地方全般の傾向についてこれをみる。

各県の状況をみるに，或る県では用法①～⑤が特に多く，或る県では⑥～⑩の用法が特に多いというような現象はみられない。

調査結果の記入方法に多少のズレがあるとしても，202地点を集計した場合，そのズレは消され用法の使用傾向としてはかえって信用度が高くなると思われる。

202地点の集計結果は次の通りである。（表2）の○印を1とし，△，▽，◦，•，▵，▿及び△▽は一部の人が使うのであって，少くともその土地において使わないのではないから，集計の場合には0.5として数えることにする。従って（表1）の数字は「サ」使用の地点の数である。

（表1）　「サ」使用地点県別集計

県名	地点数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
青森	16	15.5	13.5	16.0	16.0	1.0	15.0	3.0	15.0	0	16.0	7.5	2.0	15.5	8.5
岩手	24	22.5	19.5	20.5	22.5	0	20.5	22.0	21.0	5.0	23.0	16.5	22.0	23.0	6.5
宮城	24	24.0	21.5	22.5	22.5	1.0	20.0	24.0	23.0	13.0	24.0	18.0	20.0	23.0	4.0
秋田	17	17.0	16.0	17.0	17.0	1.0	17.0	1.5	16.5	0	17.0	15.0	0	15.0	9.0
山形	21	21.0	20.0	19.0	21.0	1.5	20.5	9.5	18.5	12.5	20.5	19.5	4.0	15.5	9.0
福島	31	29.5	25.5	26.5	31.0	1.5	15.5	29.5	10.5	4.5	30.0	18.5	23.5	28.5	4.5
茨城	30	27.5	20.0	19.5	28.0	1.5	1.0	6.5	3.0	0	27.5	0.5	3.0	17.5	0
栃木	18	12.5	6.5	9.0	9.5	0	0	1.0	1.0	0	11.5	1.0	0.5	5.5	1.0
北海道	21	18.0	10.5	14.5	16.0	1.0	10.5	0.5	12.0	2.5	17.0	7.0	1.5	13.5	3.5
（計）	202	187.5	153.0	164.5	183.5	8.5	120.0	97.5	120.5	37.5	186.5	103.5	76.5	157.0	46.0
	%	95	75	81	91	0.3	59	48	59	13	92	51	38	78	23
順位		1	6	4	3	14	8	10	7	13	2	9	11	5	12

〔4〕

上記の（表1）から，使用順位について考察してみる。

用法①「東京サ行く」と，②「東京サ着く」とは上接語を同じくしながら順位はかなり離れている。①のつぎは⑩「山サ登る」である。①と⑩との関

係と，①と②との関係とを見ると，上接語よりも下接語の方を重視すべきであることがわかる。

「行く」「登る」は，(イ)移動しつつ言語主体の現地点から離れ遠ざかる動詞である。

「着く」は，(ロ)移動の行なわれた結果ある場所に達する動詞である。

青木伶子氏によれば，平安中期以前の「へ」「に」の用法では，(イ)の場合は必ず，「へ」であって「に」は用いない。(ロ)は必ず「に」であって「へ」は用いないとのことである。[1)]

サを「移動」ということを中心としてみるべきことは，ロドリゲスの「日本大文典」（土井忠生訳）にも次のようにある。

「下（Ximo）の地方全般に関する附記」の項に，

○移動を示すYe（へ）の代りに，Ni（に）……Samaye（様へ），Sana（さな）などを使う，そこから次の諺が出ている。
Ouioye, Tçucuxini, Bandosa（京へ筑紫に坂東さ）——P．611.

「行く」という下接語を同じくする⑬「仕事サ行く」と⑦「映画（を）見サ行く」とをみると，⑬は第四位で，78%というかなりの高率を示しているが，⑦は14例中の第十位で，48%である。⑬も⑦も，ともに共通語では「に」が入るべきところである。①⑩のように場所でもなく，「仕事」「見」という動作が上接している。

しかし，「仕事」と「見」とは，一応，名詞と動詞という違いはあるが，「仕事」は「仕事する——為に行く」のであって，「動作の目的」でもあるが，同時に，「学校へ行く」「会社へ行く」「工場へ行く」などとならべて「仕事へ行く」という形も考えられないこともない。つまり，「学校，会社，工場」はそれぞれ「場所」であると同時に，「東京」とか「山」とかとは違った意味内容をもっているともとれる。「工場——へ行く」のは，「仕事の為に行く」のであり，「仕事へ行く」は「仕事場へ行く」の意を含んでいるのである。この場合，「工場」←→「仕事場」←→「仕事の為」←→「仕事」

1）「『へ』と『に』の消長」（国語学　第24輯）

という関係において考えられる。

また，特に「行く」という語からも，「仕事」を「仕事をする」という動作としてよりも，場所の観念がうかんで来るのではないだろうか。

③「（友人が私の家）サ来る」は第四位であり，81%といの高率である。この「来る」は，（ハ）実際に移動し進行する意を表わす動詞の中，移動しつつ言語主体の方に進み近づく意をあらわす動詞で，これも，青木氏によれば，平安中期以前は「に」を用いて，「へ」は用いないとのことである。

③と⑫との関係は，ちょうど①と⑦，または，⑬と⑦との関係のようなものである。⑫は共通語では「へ」などとは全く考えられないものである。それであるのに，低率とはいえ，38%あるということは，サは共通語の「へ」と一致するだけでなく，かなり「に」の要素も含んでいるといえよう。

ここに，もう一度，順位を整理してみると次の通りである。

（A）		（B）	
①〔——行く〕	95%	⑧〔——掃かせる〕	59%
⑩〔——登る〕	92%	⑥〔——聞く〕	59%
④〔——置く〕	91%	⑪〔——在る〕	51%
③〔——来る〕	81%	⑦〔見——行く〕	48%
⑬〔——行く〕	78%	⑫〔し——来た〕	38%
②〔——着く〕	75%	⑭〔——同じだ〕	23%
		⑨〔—追いかける〕	13%
		⑤〔——なる〕	0.3%

ここに，②と⑧との間に大きな差があることがわかる。東北各地の75%以上の地点でサを使っているということは，これらの用例は一応，サ専用ということができよう。②までの75%以上の群をA群，⑧の59%以下の群をB群とすると，A群は共通語で「へ」でも「に」でも通じるものであり，B群は「へ」は一応考えられないで，「に」を用いるものである。

まず，A群内で考えてみると，「行く」「登る」という動作は「未来に向って開ける」動作である。（「行った」「登った」も同じ）

古く「に」が場所を示し，「へ」が方向を示したように，**「に」はかなりはっきりした地点というものを示した**のに対して，**「へ」は，方角というばく然としたものをさす性格**があるように，古く「へ」がついた「行く・登る」に対して，「に」がついた「着く・来る」は，その上接語と共に具体性・明確性をもっている。「着く」の上接語は，はっきりと地点を示さねばならないし，「来る」の上接語は話手のもとに来るのが一般である。

青木氏も「へ」の場合は，その目標と言語主体との間にはやはり距離が置かれている，と述べている。[1)]

このように「へ」よりも「に」の方が，上接語も下接語も，やはり具体性，明確性をもっているのではないか。

本調査の結果でも，**B群の下位にあるものほど，目標がはっきりしている**（——⑨⑭⑪⑥）

結果がはっきりしている（——⑤）　と考えられる。

だから，サは，やはり「へ」の性格を保ちつつ共通語一般の用法と同じように「に」の性格をも持とうとしているのである。サが「へ」の性格に近いことは言うまでもないことながら，「に」の性格もかなり持って来ているのである。

そのために，より具体性，明確性をもったものよりも**抽象性，不明確性をもったものの方にサはつきやすい**のではないか。

さらに，「に」が具体性，明確性をもったものにつくということは，「へ」が，抽象性，不明確性をもった語につくということになるが，この抽象性ということと，さきにあげた，佐藤喜代治氏の説，サが「東ざま」「西ざま」の「さま」に由来するということと一致するのではないだろうか。

〔5〕

サの境界線を調べるため，群馬県・新潟県にも調査依頼したが，群馬県は，県下の11市・12郡とも全部，サの用例なし，との回答であった。

1）「ニとへ」（講座　現代語　第6巻）
　したがって「ココへ」というのは不自然である，「ココニ」であるべきだという。

新潟県は，北部及び東部のみを調査した，その結果，村上市，北蒲原郡，中蒲原郡，北魚沼郡，それぞれ二乃至三地点とも，サの用例なし，とのことであったが，東蒲原郡と，岩船郡関川村では次の通りである。

地点＼用例	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
東蒲原・津川	○	×	○	○	×	×	○	×	×	○	×	×	○	×
〃　・鹿瀬	△	△	△	△	×	×	△	×	×	△	×	×	×	×
岩　船・関川	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×

東蒲原郡津川町の○印は中年層以上が使用するとのこと。

岩船郡神林村，朝日村，山北村北中，山北村勝木はいずれも使用しないという答えであった。

なお，境界ということから見れば，茨城，栃木両県が問題になるだろうが，これは（表1）（表2）でもわかるから，ここでは省くが，この二県で，用法が全くないものは，茨城は用例の⑨⑭番，栃木は用例⑤⑥⑨番で，まず，⑨が共通して，その用例なし，ということになる。⑨は，共通語では「ウサギを追いかける」の「を」になるところであり，他の用例といくらか性格を異にするものである。⑤⑥⑭も，それぞれ一地点，または，一地点の老人層のみ，というものである。減少のし方は，202地点の集計結果とほぼ一致する。

本調査にあたって，前記各地600地点，600校に調査をお願いしたところ，387校から回答をいただいた。回答には，○印以外に，使用層，また他の使用例などくわしく記入いただいたところもあり，同地の方言資料を紹介または，お送り下さったところもあり，大いに参考になった。が，今回は以上にとどめ次回の発表に利用させていただくことにする。お教えいただいた方があまりに多く，ここにいちいちお名前を記すこともできないが深く感謝の意を表す。

なお，東北大学　佐藤喜代治教授からは，前記の「国語学研究1」をお送りいただいた。これは，東北大学国語学研究室の方々による臨地調査の結果で，サの実態がくわしく記されている。

また，本調査の調査項目選定に関して，弘前大学　此島正年教授，秋田大学　北条忠雄教授の御指導をたまわった。ここに厚く御礼を申し上げる。

（表２）

青　森　県

地点＼用例	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
①青　森・横　山	○	○	○	○	×	○	×	○	×	○	∘	×	∘	△
②弘　前・新　寺	○	×	○	○	×	○	×	○	×	○	×	×	○	×
③八　戸・糠　塚	○	×	○	○	×	×	×	○	×	○	×	×	○	×
4黒　石・東野添	○	○	○	○	×	○	×	○	×	○	×	×	○	○
⑤五所川原・中平井	○	○	○	○	×	○	×	○	×	○	○	×	○	○
⑥十和田・三本木	○	○	○	○	×	○	×	○	×	○	○	×	○	○
⑦三　沢・松　園	○	○	○	○	×	○	×	○	×	○	×	×	○	×
⑧む　つ・田名部	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	×	○	○	×
⑨東津軽・今　別	○	○	○	○	×	○	×	○	×	○	○	×	○	○
⑩西津軽・木　造	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	×	○	×
11中津軽・相　馬	○	○	○	○	×	○	×	○	×	○	○	×	○	○
12南津軽・藤　崎	○	○	○	○	×	○	×	○	×	○	○	×	○	○
13北津軽・板　柳	△	△	○	○	×	○	×	×	×	○	×	×	○	×
⑭上　北・野辺地	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	×	×	○	×
15下　北・佐　井	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○
⑯三　戸・五　戸	○	○	○	○	×	○	×	○	×	○	×	×	○	○

岩　手　県

地点＼用例	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
①盛岡・新庄田中	○	×	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○	○	×
2釜　石・甲　子	▽	×	×	○	×	×	○	×	×	▽	○	○	○	×
3宮　古・宮　古	○	○	○	△	×	○	○	○	×	○	○	○	△	×
4一　関・真　柴	○	○	○	○	×	○	○	○	△	○	×	○	○	△
5大船渡・立　根	○	○	○	△	×	○	▽	○	△	○	△	○	○	×
6花　巻・南　城	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○	○	×
7北　上・黒沢尻	△	△	△	△	×	○	△	△	×	○	△	△	△	×
⑧水沢・竜ケ馬場	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	×	○	○	×
9久　慈・　栄	○	△	○	○	×	×	△	△	×	○	○	○	○	×
⑩遠　野・遠　野	△	△	△	○	×	○	○	△	×	△	×	○	○	×
11陸前高田・気仙	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○	○	×
⑫江　刺・岩谷堂	○	○	○	○	×	∘	○	○	×	○	∘	○	○	∘

13岩手・岩手	○	○	○	○	×	∘	○	○	×	○	○	○	○	∘
14稗貫・石鳥谷	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○	○	×
15紫波・紫波	○	○	▽	○	×	▽	▽	△	×	○	○	▽	○	×
16和賀・和賀	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑰胆沢・前沢	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○
⑱西磐井・花泉	○	×	×	○	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○
⑲東磐井・大東	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	×	○	○	○
20下閉伊・山田	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	×	○	○	×
㉑上閉伊・大槌	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	×	○	×
㉒二戸・福岡	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○
23気仙・住田	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×
24九戸・種市	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	×	○	○	×

宮城県

地点＼用例	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
1仙台・北五番	○	△	△	△	×	×	○	△	×	○	×	×	△	×
②石巻・北鰐山	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○	○	×
3塩釜・花立	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×
4古川・下中目	○	×	○	○	×	×	○	△	×	○	×	○	△	×
⑤気仙沼・常楽	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○
6白石・福岡長袋	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○	○	×
7角田・尾山荒	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○
8名取・閑上新	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×
9刈田・七ケ宿	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×	○	×
⑩柴田・大河原	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11伊具・丸森	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○
12亘理・亘理	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×
⑬名取・岩沼	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×
⑭宮城・松島	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×
15黒川・大郷	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	×	○	×
16加美・小野田	○	○	×	○	×	×	○	○	○	○	×	○	○	×
17志田・松山	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	▽	○	○	×
⑱玉造・岩出山	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	×	○	○	×
19遠田・涌谷	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	×	○	○	×
20栗原・若柳	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	△	○	○	×
21登米・迫	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×
22桃生・鳴瀬	○	×	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○	○	×
23牡鹿・牡鹿	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	×
㉔本吉・志津川	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	×	○	×

秋　田　県

地点＼用例	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
①秋田・手形中野台	○	○	○	○	×	○	×	○	×	○	○	×	×	×
2能代・盤若山野	○	○	○	○	×	○	×	○	×	○	○	×	○	×
③　横手・下根岸	○	○	○	○	×	○	×	○	×	○	○	×	○	○
4大　館・堂　宮	○	○	○	○	×	○	×	○	×	○	△	×	○	○
⑤本　荘・桜小路	○	○	○	○	×	○	×	○	×	○	○	×	○	×
6男鹿・脇本前野	○	○	○	○	×	○	×	○	×	○	○	×	○	×
7湯　沢・　新	○	○	○	○	×	○	△	○	×	○	○	×	△	×
⑧大　曲・飯　田	○	○	○	○	×	○	×	○	×	○	○	×	○	○
⑨鹿　角・花　輪	○	○	○	○	×	○	×	○	×	○	○	×	○	○
10北秋田・鷹　巣	○	○	○	○	×	○	×	△	×	○	•	×	•	×
⑪平　鹿・雄物川	○	○	○	○	×	○	×	○	×	○	○	×	○	○
12山　本・琴　丘	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	○	×	○	○
13南秋田・天　王	○	×	○	○	×	○	×	○	×	○	○	×	○	○
14河　辺・雄　和	○	○	○	○	×	○	×	○	×	○	×	×	○	×
⑮由　利・矢　島	○	○	○	○	×	○	×	○	×	○	○	×	○	×
16雄勝・稲庭川連	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	×	○	○
17仙　北・角　館	○	○	○	○	×	○	×	○	×	○	○	×	○	○

山　形　県

地点＼用例	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
①山　形・　緑	○	△	×	○	×	○	×	△	×	○	△	×	×	×
2米　沢・屋　代	○	○	○	○	×	○	×	○	×	○	○	×	△	×
3鶴　岡・新斉部	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4酒田・北千日堂	○	○	○	○	×	△	×	△	×	○	△	×	△	×
5新　庄・小田島	○	○	○	○	×	○	○	△	×	△	△	×	△	×
6寒河江・寒河江	○	○	○	○	×	○	×	○	×	○	○	×	○	○
⑦上　山・　裏	○	○	○	○	×	○	△	○	○	○	○	×	○	×
8村　山・楯　岡	○	○	○	○	×	○	△	○	○	○	○	×	○	○
9長　井・　宮	○	○	○	○	×	○	×	○	×	○	○	×	×	×
⑩天　童・天　童	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×	○	○
11東　根・大　林	○	○	○	○	×	○	×	○	○	○	○	×	×	×
12尾花沢・尾花沢	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×	○	○

13西村山・大　江	○	○	○	○	×	○	×	○	○	○	○	×	○	○
14東村山・中　山	○	○	○	○	△	○	○	○	×	○	○	×	○	×
⑮北村山・大石田	○	○	○	○	○	○	×	○	▽	○	○	×	×	×
16東置賜・宮　内	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○
17西置賜・小　国	○	○	○	○	×	○	△	○	○	○	○	×	○	×
18東田川・余　目	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○
19西田川・温　海	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑳最　上・真室川	○	△	○	○	×	○	×	○	×	○	○	×	○	×
21飽　海・遊　佐	○	○	×	○	×	○	×	×	○	○	○	×	○	×

福　島　県

地点＼用例	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
1福　島・方木田	△	△	△	○	×	○	○	△	×	○	△	△	△	×
②会津若松・　栄	○	○	○	○	×	○	○	×	×	○	×	○	○	×
③郡　山・長　者	○	×	○	○	×	×	○	×	×	○	×	×	○	×
④　平　・　桜	○	○	×	○	×	×	○	△	×	○	○	×	○	×
5白　河・明　戸	○	○	○	○	×	×	○	×	×	○	○	○	○	×
6喜多方・松　山	○	○	○	○	×	○	○	×	×	○	×	×	○	×
⑦須賀川・西　川	○	○	○	○	×	×	○	×	×	○	○	○	○	×
8常　盤・湯　本	△▽	×	△▽	△▽	×	×	△▽	×	×	△▽	△▽	△▽	△▽	×
9盤　城・永崎館	○	○	▽	○	×	×	▽	×	×	○	○	○	○	×
10内　郷・　宮	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○	○	×
11勿　来・勿　来	○	×	○	○	×	○	○	○	×	○	×	○	○	×
12原　町・桜　井	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○
13相　馬・中　村	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○	○	×
14二本松・郭　内	○	△	△	○	×	△	▽	△	×	○	△	△	○	×

⑮東田川・　塙	○	○	○	○	×	×	○	×	×	○	×	○	○	×
16西白河・西　郷	○	○	○	○	×	×	○	×	×	○	○	○	○	×
17南会津・田　島	○	○	○	○	×	×	○	○	×	○	○	○	○	×
18北会津・北会津	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	×
19信　夫・飯　坂	○	○	○	○	×	○	○	△	×	○	○	△	○	×
⑳伊　達・川　俣	○	○	○	○	×	△	○	△	×	○	×	○	○	×
21安　達・本　宮	○	○	○	○	×	×	○	×	×	○	×	○	○	×
㉒安　積・湖　南	○	○	×	○	×	×	○	∘	○	○	×	○	○	∘
23岩　瀬・岩　瀬	○	○	○	○	×	×	○	×	×	○	○	○	△	×
24耶　麻・猪苗代	△	△	△	△	△	△	○	△	△	○	△	△	△	△
25河沼・会津坂下	○	×	○	○	×	○	○	×	×	○	×	×	○	×
26大沼・会津高田	○	○	○	○	×	○	○	×	×	○	×	○	○	×
27石　川・石　川	○	○	○	○	×	×	○	×	×	○	○	○	○	○
28田　村・船　引	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○	○	×
29石　城・四　倉	○	○	○	○	×	○	○	×	×	○	○	○	○	×
30双　葉・楢　葉	○	○	○	○	×	○	○	△	△	△	△	△	△	△
31相　馬・鹿　島	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○

茨　城　県

用例 / 地点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
①水　戸・　大	○	○	×	○	○	×	○	○	×	○	×	×	×	×
2日　立・助　川	○	×	○	○	×	×	×	×	×	○	×	×	○	×
③土　浦・立　田	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	×	×	○	×
④古　河・　旭	○	×	×	○	×	×	×	×	×	○	×	×	○	×
⑤石　岡・国分後	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×
⑥下　館・岡　芹	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	∘	×	○	×
7結　城・江　川	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	×	×	○	×
8竜ケ崎・(愛宕)	○	×	×	○	×	×	×	×	×	○	×	×	○	×
⑨下　妻・下　妻	△	△	×	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×
10水海道・天　満	○	×	×	○	×	×	△	×	×	×	×	×	×	×
11那珂湊・山の上	○	△	○	○	×	×	×	×	×	○	×	×	△	×
12常陸太田・仲城	○	○	○	○	×	×	○	×	×	○	×	×	○	×
13勝　田・勝　倉	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	×	×	○	×
14高　萩・下手綱	△	△	×	△	×	×	×	×	×	△	×	×	△	×
15北茨城・中　郷	○	△	△	○	×	×	×	×	×	○	×	×	△	×
16笠　間・笠　間	○	○	○	○	×	×	○	×	×	○	×	×	△	×

17東茨城・常　澄	○	△▽	×	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×
18西茨城・岩　瀬	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	×	×	○	×
19那　珂・美　和	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	×	○	○	×
20久　慈・大　子	○	○	×	○	×	×	×	×	×	○	×	×	○	×
21多　賀・十　王	○	○	○	○	×	×	○	×	×	△	×	▽	▽	×
22鹿　島・波　崎	○	○	○	○	×	×	×	○	×	○	×	×	○	×
23行　方・潮　来	○	○	○	○	△	○	×	○	×	○	×	○	○	×
24稲　敷・江戸崎	○	○	○	○	×	×	△	×	×	○	×	×	○	×
25新　治・八　郷	○	×	×	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×
26筑　波・筑　波	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×
27北相馬・取　手	○	×	○	○	×	×	○	×	×	○	×	×	×	×
28真　壁・関　城	△	△	△	△	×	×	△	×	×	△	×	×	△	×
29結　城・石　下	○	○	○	△	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×
30猿　島・猿　島	▽	▽	▽	▽	×	×	▽	×	×	▽	×	×	▽	×

（注）茨城29，結城・石下の○は男のみ使用　　8龍ケ崎（　）内は校名

栃　木　県

用例 / 地点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
1宇都宮・今　泉	○	×	○	○	×	×	×	×	×	○	×	×	○	×
2足　利・西　宮	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
3栃　木・皆　川	○	○	○	○	×	×	×	○	×	○	×	×	○	○
4日　光・七　里	△▽	△▽	△▽	△▽	×	×	△▽	×	×	△▽	×	×	△▽	×
5今　市・大　桑	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	×	×	○	×
⑥鹿　沼・　万	△	×	△	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×
7真　岡・　台	△	×	×	×	×	×	×	×	×	△	×	×	×	×
8佐　野・金屋下	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
⑨小　山・小　山	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×
⑩大田原・大田原	○	×	×	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×
11矢　板・矢　板	○	×	○	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×
12河　内・上三川	○	×	×	○	×	×	×	×	×	△	×	×	×	×
13上都賀・栗　野	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
14下都賀・国分寺	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×
15芳　賀・二　宮	○	○	○	○	×	×	△	×	×	○	×	△	○	×
16那　須・那　須	○	○	○	×	×	×	×	×	×	○	×	×	○	×
17塩　谷・塩　谷	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×
18安　蘇・田　沼	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

北　海　道

地点＼用例	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
1小樽・石山	○	○	○	○	×	○	×	×	△	○	×	×	○	×
2室蘭・小橋内	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
3釧路・鳥取	○	△	△	○	○	○	×	○	×	△	△	△	△	×
④北見・小泉	○	×	○	○	×	○	×	×	×	○	×	×	×	×
5網走・卯原内	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
6留萌・春日	○	×	×	△	×	×	△	×	×	△	△	×	○	×
⑦苫小牧・東	○	○	○	○	×	△	×	○	×	○	×	×	○	×
⑧稚内・宝来	○	○	○	○	×	○	×	○	×	○	○	×	○	×
9虻田・豊浦	○	×	∘	○	×	○	×	○	○	○	×	×	○	∘
10桧山・江差	○	○	○	○	×	○	×	○	×	○	○	×	○	○
11瀬棚・瀬棚	○	×	∘	○	×	×	×	○	×	○	×	×	∘	×
12松前・福島	○	○	○	○	×	○	×	○	×	○	○	×	○	○
⑬上磯・木古内	○	○	○	○	×	×	×	○	×	○	×	×	○	×
14白老・白老	∘	×	∘	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
15沙流・門別	○	×	△	△	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×
16静岡・静岡	×	×	×	×	×	×	×	×	×	△	×	×	△	×
⑰浦河・浦河	△	×	×	×	×	×	×	×	×	△	×	×	×	×
18厚岸・厚岸	○	○	○	○	×	○	×	○	×	○	○	×	○	×
19目梨・羅臼	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
20紋別・雄武	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	○	×
21常呂・置戸	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
㉒天塩・天塩	○	○	○	○	×	○	×	○	×	○	○	×	○	×
㉓利尻・利尻	○	○	○	○	×	×	×	○	×	○	×	×	×	×
24礼文・礼文	○	○	○	○	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○